

## 第4回 総合計画市民会議（グループ討議）議事摘録

日時 平成16年1月17日（土） 14:00～16:30

場所 産業振興会館9階会議室

出席者 中村ノーマン座長、大枝副座長、中村紀美子副座長、有北委員、岩田委員  
岩本委員、上野委員、大下委員、北島委員、鈴木委員、高杉委員、高橋委員、  
パク委員、松崎委員、森委員、淀川委員、渡邊委員

事務局 北條総合企画局長、三浦企画部長、木場田政策部長、田中企画調整課長  
瀧峠企画調整課主幹

議題 「自立・福祉」について

公開及び非公開の別 公開

傍聴者 2名

議事

### グループ討議（Aグループ）

Aグループ委員 有北委員、岩田委員、上野委員、大下委員、鈴木委員、高橋委員  
中村ノーマン委員、松崎委員、淀川委員

事務局委員 瀧峠企画調整課主幹、高橋主任、松川職員

役割分担

事務局

- ・ 議事の摘録と事務の補助（タイムキーパー等）

まとめ役の選出

市民委員

- ・ 福祉をあげた人がまとめ役をやってはどうか。

市民委員

- ・ リストの一番上の有北さんがやってはどうか。

市民委員

- ・ 了解。（進行役有北委員に決定）

当日配布資料の是非の確認

市民委員

- ・ 事情により事前配布をしていない資料を提出したい。提出がこれまでの繰り返しであったという問題意識もあるが提出したい。

市民委員

- ・ 議事進行の上ではスムーズに運べるのでよいのでは。

市民委員

- ・ 自分は遅れたので提出不可と言われ了解した。皆で決めたルールなので納得したが、そういう事情を承知の上で提出したいということか。

市民委員

- ・ そういうことである。

企画調整課主幹

- ・ ルール厳守で断念頂いた委員もいた。会議資料として扱うのは公開等の扱いもあるので、扱いを考えてほしい。

市民委員

- ・ 資料というより、発言の補足材料なので提出できなくとも構わない。

一同

- ・ 提出を了承

#### 議論ルールの確認

市民委員

- ・ 発言内容を記録したほうが良い。

市民委員

- ・ 発言者が記述するということにしたい。

一同

- ・ 了解

#### テーマについての意見交換

市民委員

- ・ 資料NO2。自立と福祉は裏腹の関係。自立できない人に対するどんな支援ができるかに注目した。
- ・ 子育て中の女性は問題。子育て中の女性が離職してから職場復帰するのは困難。再就職先も少ない。賃金も低い。これが女性の自立を阻害する要因。
- ・ 25～44歳の離職率を減らすことが重要。これは乳幼児対策になる。保育強化、育児減税（市民税）、ほか実施すべき。
- ・ 就学者支援については教育委員会が重要。自立教育、PTAが母親中心で回っていることも問題。男性参加義務づけるべき。他は資料の通り。
- ・ 高齢者：65才までの就労。街中に老人施設、グループホーム等を、小中学校の空き教室活用をNPOと連携して実施すべき。
- ・ ハード・ソフトの視点からは、小規模学校（1学年1クラスのみなど）の統廃合。横浜市と一緒に学校を作ってもよい。ソフトは福祉NPOの拡大が重要。

#### 市民委員

- ・ 子どもの施設（こども文化センターなど）が玄関も暗くて開いているどうかも分からない。老人いこいの家は町はずれにある。これらを一緒にして街中につくってはどうか。
- ・ 多摩川河川敷や市民健康の家などをつかい、子ども祭りなどのイベントを老人と子どもが同時開催して交流をはかってはどうか。「水辺の楽校」には老人から幼児まで来て楽しんでいる。

#### 市民委員

- ・ 市民でないといけないものを発想してみた。昨年生田地区整備構想策定調査をやってみた。生田に市営ゴルフ場があるが、これを市がやるのは恥ずかしい。
- ・ ここで子どもや高齢者とあつまって自然再生事業をやればそれが福祉になる。作っていく過程が重要。N04に施策展開を示した。こういうプロジェクトをやらせて欲しい。

#### 市民委員

- ・ 資料を出していない人の意見も聞こう。

#### 市民委員

- ・ 地域福祉計画を市が作っている。自立できる人、できない人という視点はひっかかる。ノーマライゼーションの世界では要支援者でも普通の人と対等な存在であるとの観点が重要。
- ・ 要支援者が持っている意見に焦点を当てたい。税だけ払っている外国人への対応も重視したい。基本的に、周りの住民の意見が変わらない限り福祉の議論は難しい。

#### 市民委員

- ・ 人口推計で生産年齢人口が10%減って高齢者が10%増える。「少子高齢化」が大きなキーワード
- ・ 福祉の対象もずいぶん増えているDV、引きこもり、幼児虐待、中高年サラリーマンの自殺など次々増えている。これらを福祉専門家に任せるのではなく、「癒される地域社会」をいかにつくるか「福祉コミュニティ」「福祉社会」という概念が重要。
- ・ 自立：生涯学習、社会教育の視点が重要。福祉を生涯学習のテーマとして設定することも可能。福祉を考えることで自分も成長する。生涯学習の仕組みを。
- ・ あわせて共働が重要。福祉も各種分野・テーマの専門家、ボランティアをネットワーク化する仕組みが必要。1つのテーマだけでは解決し得ない問題が増えている。全領域ボランティアネットワークシステムを地域に下ろしていくことが重要。「癒される地域社会」に向けて何をすべきかを検討する。健常者もみんなが福祉の対象で、みんなが福祉をする。される人とする人という区分はあたらない、関係は刻々かわっていく。

#### 市民委員

- ・ 就業している高齢者の方が健康であるとの資料がある。就業には生きがいと

収入の2つの目的がある。こういったニーズに応えることが重要。

- ・ 老人の医療、検診などをきちんと受けて自分が健康に心がけている人を誰かが表彰するような仕組みがあってよい。健康になれば働く意欲もでてくるだろう。経済も活性化する。

#### 市民委員

- ・ NPOをしている。子育てママが仕事に飢えている状況が起こっている。子育てと就業の両立ができれば労働力不足の問題も解消する。
- ・ 社会復帰の環境・勉強の場を整えていくことが必要。
- ・ 福祉は与えられる福祉を要求するのではなく、高齢者が自分たちが積極的な役割を果たすことができる場を作った方が高齢者のため。与えられる福祉だけでは駄目。

#### 市民委員

- ・ 人のことが分かり合うことが重要。人と人との関係が常に変化していることを認識すべき。生涯学習はこれまで高齢者対策の一部だったが、これからは働く人のための生涯学習も重要。ヨーロッパなどでは生涯学習という言葉はあるが、それは「当たり前」と思われている。人間は生涯学習し続けるものという理解。
- ・ 女性の社会復帰（高橋さん）や団塊の世代向けの生涯学習に加え、流入外国人への学習の場も必要（語学の対策はあるが、地域社会等に関する学習の場は乏しい。）。
- ・ 「社会全体のレベルをあげる」のが福祉。全ての人が福祉を受ける場合もある場合もある。
- ・ キーワードをあげると・・・「施し（要求）中心の福祉」から「参加の福祉へ」。
- ・ 立場の違う人が沢山出てくる。「多文化共生」に取り組む部署が欲しい。市長直轄で人と人との関わりを教育していくきっかけが必要。

#### 市民委員

- ・ 子育て、子どもが中心。総論ではなく各論に入るべき、子どもに関する情報・窓口の一元化、学童期からの乳幼児とのふれあい、各委員会、生涯学習の倍には保育を、わくわくプラザの検証・改善、スタッフ研修、学童文化センターは人材が不足、地域開発・街づくりにおいて子ども用の遊び場を（常設プレイパークやより小規模な規模の遊び場を）、子ども虐待・放棄対策、施設の充実を、妊娠出産前後（妊娠期～2才児）の親の心のケア、子育て支援の普及啓発のため、各区で子育て祭り、3年に1回全市で子育て祭りを、中学・高校生が保育を学ぶ場の整備を。地域で子育てに関わる福祉の仕事を体験すべき。中学で保育の基礎を学ぶ、高校教育の中で准保育士の資格とれるような仕組みを。地域の雇用創出にもつながる。

#### 政策部長

- ・ これまでの議論は「居場所づくり」、「少子高齢社会への対応」、「地域社会で支え合う仕組み」、「要求から参加へ」、「多文化行政（行政のあり方）」、「生涯学習、ノーマライゼーションの地域づくり」、「健康づくり表彰制度」、

「就労機械提供」等のグループに分けられる。

市民委員

- ・ 福祉の考え方の違いがあったように思うので確認を。

市民委員

- ・ 過去、福祉は特定の人のためにあるサービスだった（障害者、高齢者、生活保護）。枠組みが決まっていた。これからは全ての人が福祉の担い手であり受け手である。両者の関係が刻々かわっていく。「福祉社会」を作っていくという認識でいくべき。
- ・ 自立した住民が地域で支えあい、癒しあうことが重要。
- ・ 生涯学習は自己教育。テーマは福祉の中にも沢山ある。そういう枠組みで福祉も地域社会も人間関係も捉えていくべき。

市民委員

- ・ それは異論がない。市役所の人が持ち得ない視点をいかにだすかが重要では。

企画調整課職員

- ・ たとえば居場所づくりなど、具体的にどうするかの見解を出して欲しい。

市民委員

- ・ 理念が共有されているとは思わない。皆福祉を与える人間の視点になっている。

市民委員

- ・ 自分が何をできるかを考えれば、与えることが中心になるのが実態では。

市民委員

- ・ これからの街づくりに福祉の視点をしっかり反映すべきというのが自分の意見。
- ・ 個々の問題には理念が決まれば対応可能では。

市民委員

- ・ 時間の問題もあるので、具体的なものについて議論をしたい。

政策部長

- ・ 「子ども」、「子育て」、「高齢者」、「役所の部署の一本化」、「教育（学校の幼児教育など）」、「理念・考え方」、「地域・親の参加」、「他具体的な子育て事業の提案」、「生涯学習」等のグループに集約できる。

市民委員

- ・ この会議が焦点を当てるべき理念を提案するのか、具体的な施策を提案するのが明確になっていない。

市民委員

- ・ 具体論を詰めるのは時間がないので、補足事項がないかを確認して加筆して欲しい。
- ・ 追加意見があれば出して欲しい。

市民委員

- ・ 多文化教育が今後重要になると思う。これに先立った施策展開を。

市民委員

- ・ 市民同士の情報ネットワークをいかに作るかが重要（国際情報発信や産学官ネットワークはあったが。）。「情報市場」のような仕組みを考えていく必要がある。

市民委員

- ・ 市民活動センターが中間組織としての位置づけを担うと思うが、今は活動している人しか対象になっていない。一般の生活する市民と、これらセンターとを結ぶことが重要。

市民委員

- ・ 自分の思いが市に通じない経験を長く経験してきた。よく考えると、市民同士の会話が欠けていたし、市も現場がかわっていないので良くなならない。

市民委員

- ・ 近所の小学校に芝生ボランティアをやっているが、PTAが女性だが男性のPTAが必要である。平和な時代は女性でよいが、今は異なる。男性が学校に参画する、土曜日に会合を。

市民委員

- ・ 福祉課題が起こる前に対策を講じることが重要。「生涯現役大作戦」などは良い施策だと思う。「予防」が重要。
- ・ 福祉の基本的考え方については異論がないとの意見もあったが、そうは思わない。例えば、川崎の障害者は生田よりも深大寺や町田などの公園で和んでいる。これは坂道や段差等の存在が生田に多いのも一因と思われ、生田において福祉の視点が十分でなかったためと考える。このように実際の現場レベルでは差がある。
- ・ 公益性と受益者負担の関係を明確にして検証していく必要がある。これは行政にお願いしたい。

市民委員

- ・ 受益者負担という表現は気になる。あらゆる政策は全市民が受益者ではないか。直接の受益者が受益者としてよいのか、そのルールが必要。「受益者負担」を考える時には「誰を受益者と定義するか」が重要。何を基準に受益者を定義するのか。従来そこは曖昧だった。

## グループ討議（Bグループ）

Bグループ委員 岩本委員、大枝委員、北島委員、高杉委員、中村紀美子委員、パク委員

森委員、渡邊委員

事務局委員 瀧峠企画調整課主幹、高橋主任、松川職員

役割分担

事務局

- ・ 議事の摘録と事務の補助（タイムキーパー等）

司会役の選出

- ・ パク氏立候補、進行役決定

分科会の進行方法について

市民委員

- ・ 進行役の役割として時間内で終わるようにすること、また皆さんの意見をどんどん出してもらって、目に見える形でまとめていくということで、進めていきたい。
- ・ すすめ方についてはマッピングコミュニケーションという方式を使う。ここでは、ひとつのルールがある。安心して様々な意見をたくさん出してもらえるためには、他の委員の意見について否定や反論はしないことである。自立福祉を念頭に、頭に浮かぶキーワードを自由に出してもらう。

市民委員

- ・ 「自立・福祉」というテーマについて、イメージを膨らませるためにも最初に自由討論をしてから作業をしてはどうだろうか。議論に追いつけないという面もある。

市民委員

- ・ 前回の議事録がないので、欠席したものには議論の過程がよくわからない。

市民委員

- ・ 前回福祉の重要性は挙げられたが、それだけではカバーできないということで自立というキーワードが出てきた。

市民委員

- ・ 福祉の対象にはならないで、元気にやっけていく、元気に楽しく生きるということも重要ということで自立というキーワードが出てきた。

市民委員

- ・ 家族、バリアフリーといった当たり前のキーワードを出すのか、あるいはひとつの解決策なり方向性をだしていくべきなのか、どのように考えていけばよいだろうか。

市民委員

- ・ 当たり前なことや身の回りの細かいことは、ほかでもすでに出ているのでは  
とってしまう。この会議でどういう意見を出したらいいのかということを考え  
る必要があるのでは。

市民委員

- ・ Kネットという団体に入って活動しており、バリアフリーのようなものは思い  
浮かぶが、このような当たり前なことでもいいのか。

市民委員

- ・ どこでもあること、普遍的なことが実は重要だと考える。バリアフリーなど  
のキーワードもどんどん出してほしい。

市民委員

- ・ 結論を出す場ではないので、思ったことを忌憚なくどんどん出して言っても  
らえればいい。

市民委員

- ・ 実体験、生活体験からのキーワードを出していけばいいだろう。身の回りで  
困ったこと、こうしていったらいいというものを出していけばいい。

市民委員

- ・ 当事者意識で意見をどんどん出してもらおうとするのがこの会議の意義であ  
ろう。

#### 福祉・自立に関するキーワード

市民委員

- ・ 病気になる前の健康対策の重要性を挙げたい。健康になるためには体を動か  
したいが、そのための体を動かす場所がまずほしい。また、具合が悪いという  
ときにアドバイスを受けながら運動できるようなところがあるといい。

市民委員

- ・ 子供も高齢者も同じところにいるので、両者を並行して考えていくべき。幼  
児と高齢者、地域、家庭についても考えていきたい。  
・ また高齢者と障害者との交流も重要。

市民委員

- ・ 子供・高齢者・弱者というものに、若者も対象として加えていきたい。現状  
の就職難などを考えても若者のことをもっと考えるべきである。

市民委員

- ・ 介護制度から漏れる層への対応や支援も重要である。

市民委員

- ・ 生涯学習ができるような施策環境づくりが求められる。情報を一覧で確認で  
きるような拠点やしぐみがあるといい。



市民委員

- ・ 自分のやりたいことを自分で見つけられる。例えば学習だけでなく、一緒に食事ができるなど、やりたいことができる、仲間を見つけれられるようなしかけがほしい。

市民委員

- ・ 福祉については、受ける人がいれば与える人もいる。受ける人だけでなく、福祉事業者への支援として免税措置なども必要。福祉を提供する側をいかに育成するかが重要である。

市民委員

- ・ どんな人でもやりがいもてる社会が必要。高齢者でも、やりがいをもてる、役に立つことができる、どんな人も何らかの価値が提供できるような社会を形成していくべき。例えば、寝たきりの人でも、子どもたちとの交流を通じて、子どもの安全を願うといったかたちの価値を提供できる。

市民委員

- ・ 子どもや若年層に関していえば、いじめと引きこもりもある。特に子ども虐待については、通報システムの確立が重要である。アメリカのように通報した人が逆恨みや通報の責任から逃れる免責措置制度の整備が必要になる。

市民委員

- ・ ホームレス対策としてホームレス自身の自立も考えたい。彼らが、自分たちが何ができるか、社会にどうやって役に立てるかということを考えてもらえるようなしくみをつくっていかないといけない。

市民委員

- ・ 障害者と高齢者の交流を考えたときに、高齢者が支えられる側になるだけでなく、障害者を支える側に回ることもできる。

市民委員

- ・ 障害者の施設に市として支援をするという施策は動いているのか

市民委員

- ・ 施設によっては障害者が雇用されていたり、支援は行われている。そうした施設では補助なども行われていると思う。

市民委員

- ・ 少子化対策として、3人目から金を出すということも考えられる。地域で策定される計画におけるキャッチフレーズなどでは、世代を通して住み続けたい町というものを出しているが、それは言い換えれば税金を払い続けたい、子供を生み続けたいということになる。

市民委員

- ・ 保育所は十分なのだろうか。子育て中の若い世代について困ったときのサポートのしくみもあるといい。

市民委員

- ・ 子ども文化センターや高齢者施設など、市の施設については世代間の交流が

まったく行なわれたいし、利用もされていないという指摘が聞かれるが、どうなっているのか。

市民委員

- ・ それらの施設を一体的に活用という話もあるらしいが、実態はプログラムや指導者が不足しているということだろう。

キーワードのまとめの枠組み

市民委員

- ・ まとめ枠組みとして10年・3年という期間でキーワードを区切ってやっていくと理念的なものや具体的な施策的なものにわかれると思うが、この方法はどうか。

市民委員

- ・ 自立と福祉で何を指すかの理念的なものがわからない、それが決まらなると、具体的な施策やテーマについてもどのように議論するかがわかりづらい。

市民委員

- ・ 具体的なところから大きなものを作る方法と、大きなものを決めてから具体的なものをやるのか、2つの方法があるが、どうやってやっていくかが決まっていなない。

市民委員

- ・ これまで出たキーワードを、大きな枠組みのものと小さなものに意識して区切っていくという方法で整理してはどうか。

市民委員

- ・ 年齢別に、子供にかかわること、高齢者にかかわること、中高年者にかかわること、というように年代・層別に分けて考えるといいのではないか。また達成レベル別、時間的なもの・重要度の別に区切っていくことを考えたらいいのではないだろうか。

一同

- ・ 了承

年代と実施期間とのマトリクスによるキーワードの並べ替え

市民委員

- ・ 並べ替えてみると、今すぐ取り組むべきというキーワードが非常に多くなった。

市民委員

- ・ キーワードのタイプとして、さらに現象的なものと、対応が行なわれていないで問題だというものがあるようである。また、その先に何があるのか・どのような状態になるべきか、という枠組みで考えていくことができるのではないか。

## 自立・福祉に関するキーワードについての討議とまとめ

市民委員

- ・ まず若者に関するキーワードについて議論をしていきたい

市民委員

- ・ 若者というと就職できていない・正社員になっていない、年金をおさめていないという層についての問題を上げたい。彼らの中には生活保護を受ければいいという考えの人もいるらしい。
- ・ また夢がないということが犯罪にもつながると思う。高齢者の定年延長よりも、若年層の就職支援が必要なのではないか。

市民委員

- ・ 生活保護は制度としても問題があり、現在の制度では初任給と同等のものがもらえるようである。また、若者は自分で夢の見つけ方がわかっていないし、教育現場でもそうした教育が行なわれていない。

市民委員

- ・ 親の責任も大きく、家族の考え方や価値観を見直していくことも必要だろう。少年犯罪の責任を学校に問いかけるような報道の姿勢にも問題はあ

市民委員

- ・ 学習にも問題があるし、高齢者の定年延長についても問題がある。これが若年層のやる気を阻害している。

市民委員

- ・ 高齢者が職場を奪っているというが、企業では年俸制に変わっており、必ずしも高待遇で定年までというこれまでの状況とは変わってきている。また経験者は教育期間なしで使えるというところがある。
- ・ また、家庭の責任という意味では家庭内で職業観というものを見せていかないといけない。

市民委員

- ・ 全てに手っ取り早くという考えが一番いけない。結果的にその問題が自分にかえてくることになる。

市民委員

- ・ 若者の意欲が足りないというのは、原因として職場がない、家庭環境が悪いということがあげられる。

市民委員

- ・ 学校教育において、自分自身が望むことを学ぼうとする、というかたちでやってきていればいいが、そうしたことが行われていない。このため、（研修期間が少なくなっているような）企業でのやり方に対応できていない。

市民委員

- ・ 若い人にどうなってほしいかということ、やはり自立してほしいというのが基本的である。
- ・ 時間が少なくなってきたが、若者に関することについてはこの辺でまとめたい。

市民委員

- ・ 他に重要なテーマ、入れ込みたいテーマはあるだろうか。子育ての問題は是非入れていきたいと考えているが。

市民委員

- ・ 子育ての問題で重要なのは、子ども同士のコミュニケーションにおける問題が大きい。

市民委員

- ・ 子育てに関するコミュニケーションということでは、子ども同士だけでなく親同士のコミュニケーションも問題となっている。そして、これに対しては、親だけでなく社会全体で対応していくことが必要

市民委員

- ・ 高齢者の問題も重要であろう。

市民委員

- ・ 高齢者には自分の経験を無料で社会に還元して行ってほしい。そうすれば若者もやる気を出すだろう。

市民委員

- ・ 高齢者の立場を考えると、自分にはこれができるというものはあっても、それを活用する場所がないしわからない状況である。そうしたしくみを作っていくのが市の役割だろう。

市民委員

- ・ 時間が来たので以上でまとめとしたい。若者に関する事、子育てに関する事、高齢者に関する事、が大きなテーマとなる。
- ・ 時間も足りなくなってしまったので、全体会議での報告で自分の説明が足りない部分は各自で補足してほしい。

(全体会に移る)